

PANGAEA
WELL-BEING with DATA & DIGITAL

北欧のWell-Beingレポート

パンゲア合同会社
加藤 昌生
2024.1

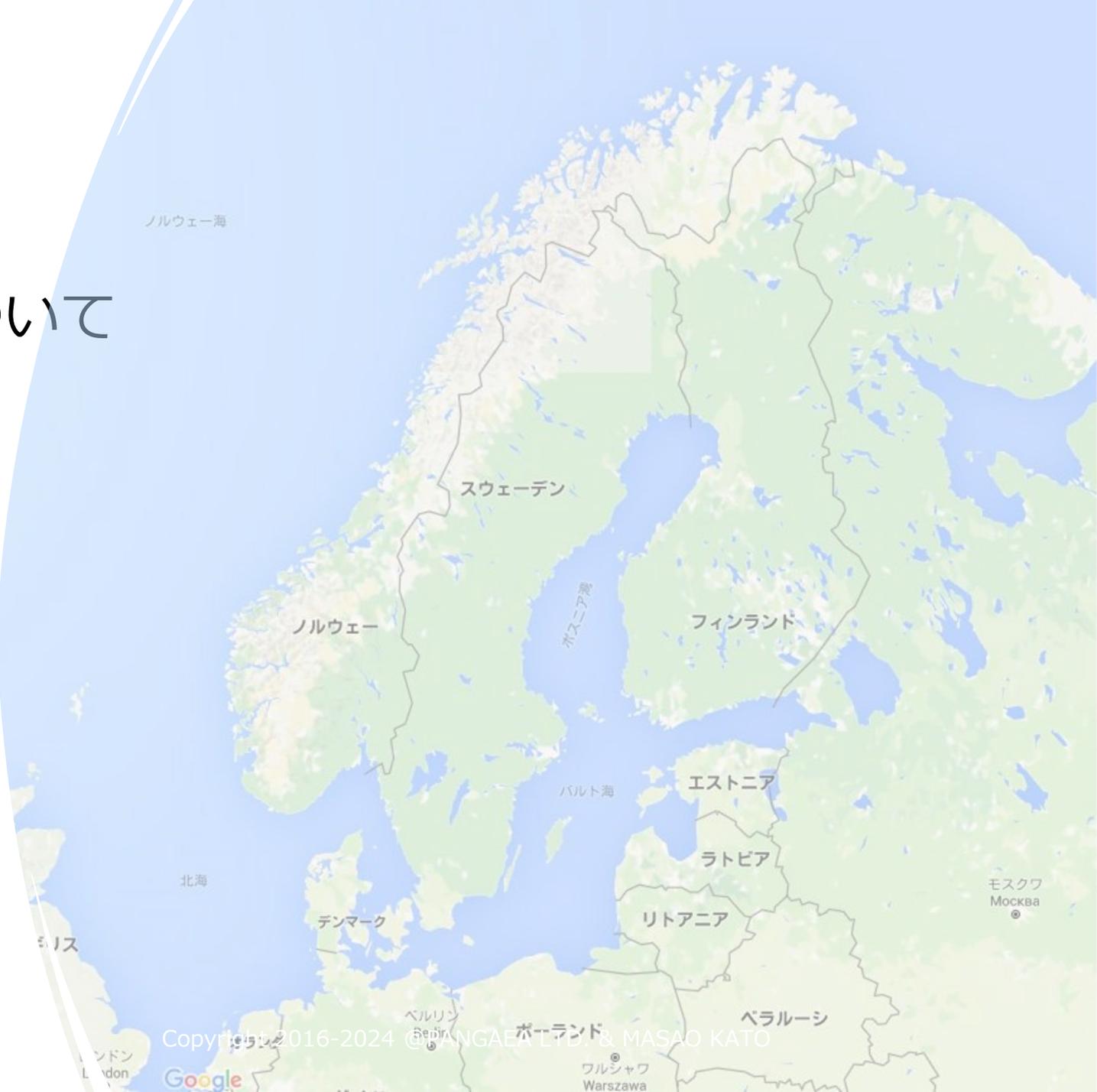
内容

- 調査の背景、目的、範囲について
- 地域の概要：北欧とは
 - 北欧、ノルディック、バルト三国、イギリス北方地域
 - 本レポートにおける北欧の定義
 - 本レポートの調査国:フィンランド
- 北欧の価値観
 - 共生と調和
 - 自然との調和
 - 多様性と包摂
- 社会発達度
- 北欧のWell-Being
- 日本と北欧の違い
 - 日本と北欧（フィンランド）の比較
 - 北欧から学べる事
- 調査国のレポート
 - フィンランド
- 日本：今後のWell-Beingの進展の可能性とマーケット



調査の背景、目的、範囲について

- 北欧（フィンランド・エストニアを軸に）
 - Well-Beingが重要
 - 自然との共生
 - デジタル社会が実現
 - デジタルビジネス
- 上記の特性のある北欧の実態を調査することで、今後、日本企業のWell-Beingを進めていくための参考にするため。



北欧とは：地域

- 狭義の北欧

- 以下の五国で、北ヨーロッパに位置バルト海や北海に面しています。

- デンマーク
 - フィンランド
 - ノルウェー
 - スウェーデン
 - アイスランド

- 広義の北欧

- 上記の五国加えて、

- エストニア
 - ラトビア
 - リトアニア
 - イギリスの北地域

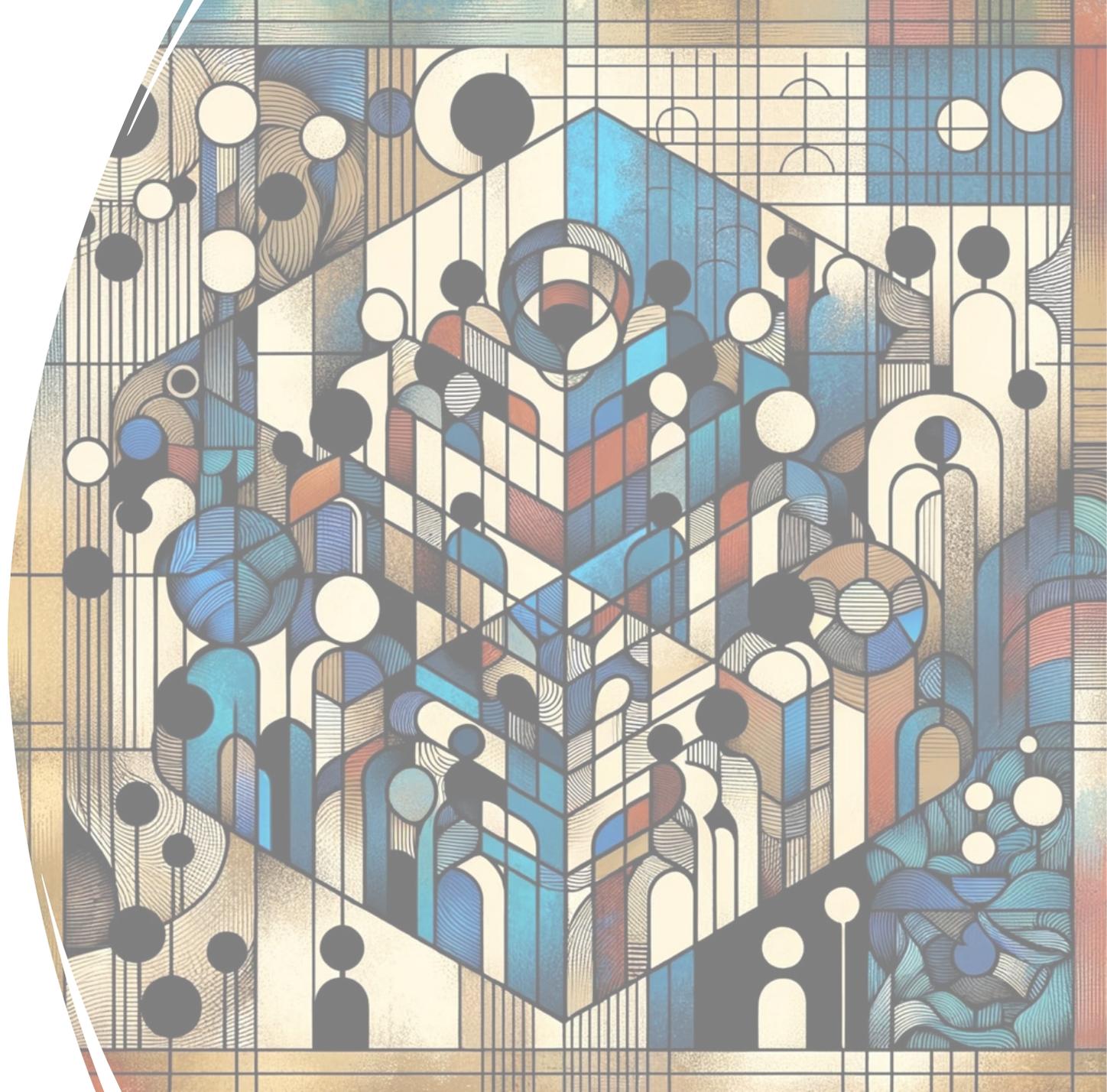


北欧とは

- 本レポートにおける北欧の定義
 - 広義の北欧から、イギリス北地域を除いた国々
- 本レポートの調査国
 - フィンランド
 - エストニア
 - リトアニア
- 今後の調査国
 - デンマーク
 - スウェーデン
 - ラトビア

北欧の価値観

- 北欧の価値観は、平等、福祉、信頼、そして自然環境への配慮が重要視されています。社会的な均等と共感が根底にあり、国民は協力と助け合いを重視しています。また、自然との調和を大切にし、環境への責任を果たすことも重要視されています。
- 北欧の価値観は、歴史的・文化的背景や社会の進化に根ざしています。長い冬の間、共同体の協力が生き残りに不可欠であり、これが社会的な均等や協力を奨励する基盤となりました。また、農耕や漁業などの自然環境に依存する生活が、自然との調和を大切にする土壌を作りました。近代においては、福祉国家の概念が導入され、社会的な公正や平等が重視されています。

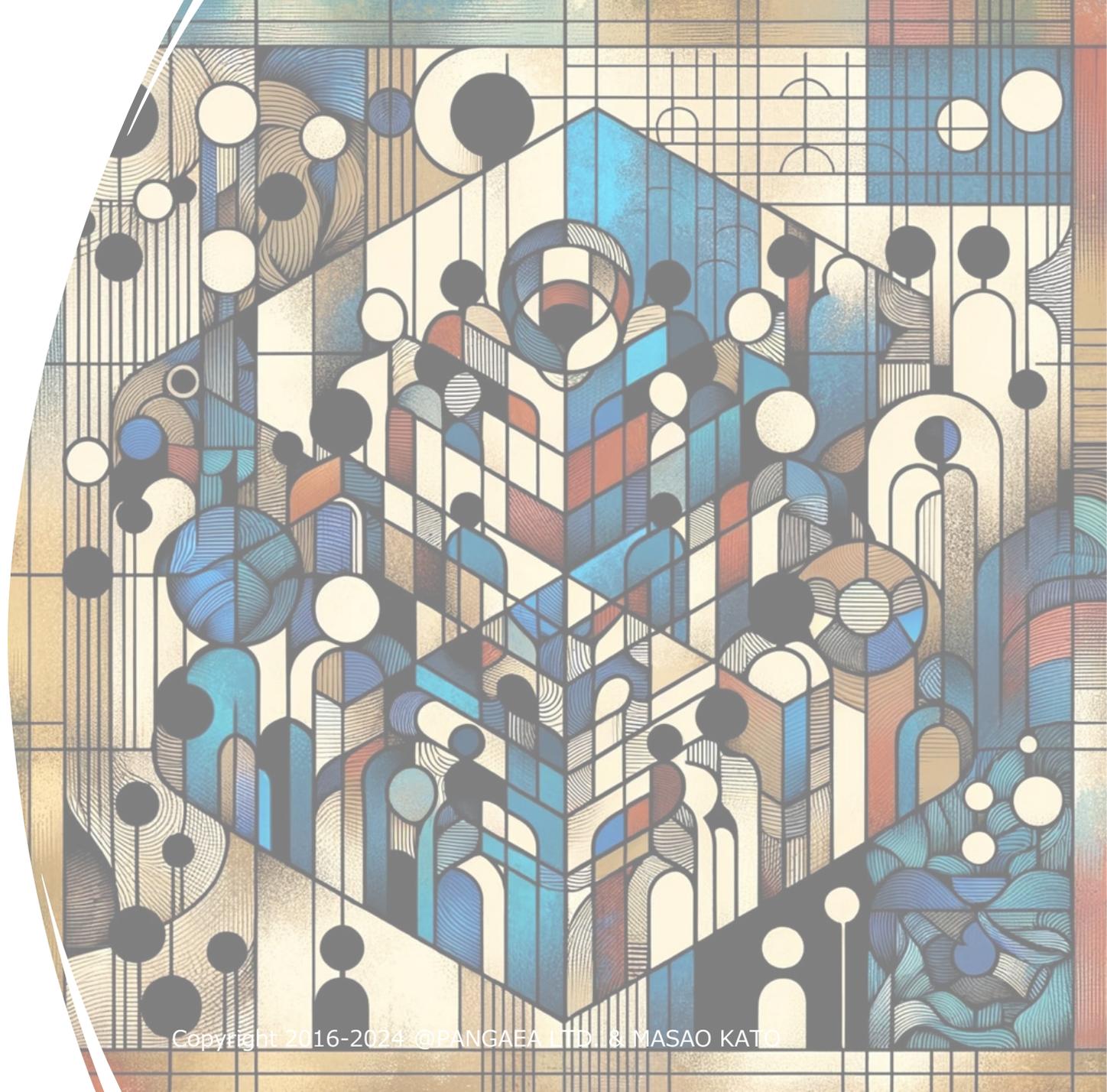


北欧の価値観

- 以下の価値観は、歴史、文化、地理的条件などが絡み合っ
て形成され、北欧諸国の社会構造や政策に影響を与えてい
ます。
- **平等と社会的な公正**: 北欧諸国では、平等が強く重視され、
社会的な格差を縮小するために様々な政策が実施されてい
ます。所得平等や機会平等が追求されています。
- **福祉国家**: 北欧は福祉国家として知られ、国民の健康や教
育などの基本的なニーズに対する高い水準の支援が提供さ
れています。
- **信頼と協力**: 信頼と協力が重要視され、社会的なつながり
が強化されています。個人と社会の協力関係が築かれ、信
頼の基盤が形成されています。
- **環境への配慮**: 自然環境への尊重があり、持続可能な開発
が奨励されています。再生可能エネルギーや環境保護が積
極的に推進されています。

北欧の価値観のコア

- 他者を包摂し、他者に優しい社会
- ライフスタイルの重視
- 共同体・コミュニティ志向
- 自然との共生と調和
- 平等で公正な福祉社会



共生と調和

- 共生と調和が重要視されており、社会的な関係や自然環境との調和が特に重要と考えられています。下記の要素が共生と調和を支え、北欧の国々を安定した社会として特徴づけています。
 - 社会的な共生：北欧諸国では平等が重要視され、社会的な格差を最小限に抑えるために様々な政策が取られています。福祉国家制度が整備され、国民は健康保険や教育などの基本的なサービスにアクセスできるようになっています。
 - 協力と信頼：北欧社会では協力和信頼が築かれており、これが個々の成功と社会全体の繁栄に繋がっています。共同体の一員としての意識が強く、相互のサポートや協力が奨励されています。
 - 自然との調和：北欧の自然環境は美しく、住民はこれを大切にしています。持続可能な開発や環境保護が進んでおり、再生可能エネルギーの利用や自然保護政策が積極的に採用されています。労働と生活のバランス：労働と生活のバランスが大切視されており、働きすぎやストレスを避けるための制度が整備されています。これにより、個人が仕事とプライベートの両方で充実感を感じる事が期待されています。



共生と調和

- 共生と調和を支える価値観・考え方としては、社会全体が平等、協力、環境への配慮を大切に、個々のメンバーが調和的な関係を築くことを重視しています。これにより社会の安定、持続可能な進化を担保しています。
 - 平等と社会的公正：北欧では社会的な格差を縮小し、平等な機会を提供することが重要視されています。福祉国家制度が整備され、基本的な社会サービスが広く利用可能です。
 - 協力と信頼：共同体の一員としての協力心が根付いており、相互の信頼が社会を支えています。これは仕事や日常生活において協力し合い、共に成長する文化を形成しています。
 - 環境への配慮：自然環境との調和が強調され、持続可能な開発が進んでいます。再生可能エネルギーや環境保護政策が重視され、未来の世代に良い状態を受け継ぐための努力がなされています。
 - 労働と生活のバランス：働きすぎや過度なストレスを避け、労働と生活のバランスが大切にされています。これにより、個々の幸福感や生活の質が向上することが期待されています。



社会発達指数による評価

- 主に一つの国・社会の以下の三つの側面から見ています。
 - 基本生活の維持
 - 基礎社会福祉
 - 自由と機会
- 社会が、どの程度発達しているかを見ることは、指標の一つとして重要かつ便利な評価だと言われています。



社会発達指数評価のポイント

- 基本生活の維持：人間が生きていくために必要最低限のものやサービスが用意されているか
 - 水や食料
 - 最低限の医療
 - 住環境
- 基礎社会福祉：生きるだけでなく、生活品質の保持
 - 基本的教育
 - 情報へのアクセスの自由（インターネットや図書館など）
 - 健康な生活
 - 60歳時点での将来への希望
- 自由と機会：最も高いレベルの評価基準で、自由に、高い質の生活ができるかどうか。
 - 人々の権利
 - 人々は自分の人生を自由に選び、生きることができるか。
 - 人々は平等にされているかどうか。
 - 高等教育が受けられるかどうか。
 - 多様性
 - 包摂



社会発達指数

- 163ヶ国、70億の人口をカバーした社会発達指数ランキング
- フィンランドは3位、エストニアは18位、日本は15位、リトアニアは29位
- 1位はノルウェー、2位はデンマーク、4位はニュージーランド、5位はスウェーデンで、上位15位内の多くはヨーロッパ諸国です。
- 隣国の韓国は17位、中国は94位、アメリカ合衆国は25位
- [Social Progress Imperative | Social Progress Imperative](#)



北欧のWell-Being

- 北欧諸国は一般的に高い生活水準と well-being (幸福度や生活の充実度) を有しています。考えられる主たる要因は下記のとおりです。」
- 福祉国家制度:
 - 北欧諸国は福祉国家として知られており、市民に対する社会的なサポートが強化されています。健康保険、教育、労働条件などの面で高い水準のサービスが提供されています。
- 教育とスキル:
 - 高品質な教育制度があり、市民にとって無料または低額でアクセス可能です。これが高い識字率や技術力を生み出し、労働市場において競争力を維持しています。
- 働き方とワーク・ライフ・バランス:
 - 北欧では働き方においてもワーク・ライフ・バランスが重視され、適切な労働時間が確保されています。これが生活の質を向上させています。
- 環境への配慮:
 - 持続可能な開発が進んでおり、自然環境への配慮が重要視されています。清潔で美しい自然環境も well-being に寄与しています。
- 社会的な安定: これらの要因が組み合わさり、社会的な安定感が高まっています。信頼性や安全性も well-being に寄与しています。



項目	日本	フィンランド
多様性 (Diversity)	少ない	少ない
男女平等	これから	実現
包摂 (Inclusive)	これから	根付いている
民族・言語	単一	ほぼ単一 (少数民族あり)
人口	多い	少ない
人口密度	高い	低い
働き方とワーク・ライフ・バランス	労働環境の改善が課題	重視
働く人のWell-Being	これから	重視
社会的平等	社会的ヒエラルキーが強い	比較的平等な社会構造
社会発達度	高い	高い
自然との共生・調和	課題	重視されている
福祉	高福祉	高福祉
健康保険	皆保険	皆保険
共同体・コミュニティ志向	かつては強かった	強い
教育の質	高い	極めて高い
個人主義・全体主義	全体があって個人	個人があって全体

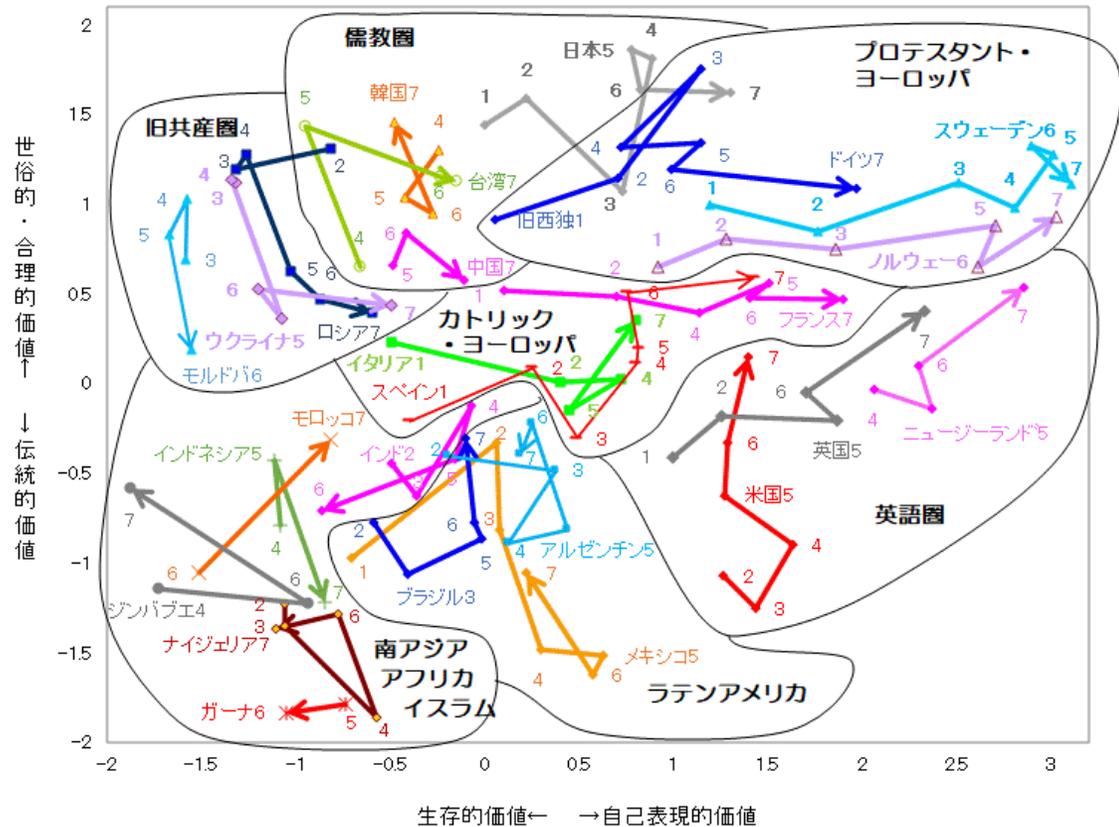
北欧と日本の共通点と違い (フィンランドとの比較)

- 日本においても、フィンランドにもおいても、都市部と地方の差は顕著です。この比較は都市部の比較となっています。

北欧と日本の違い

- 社会構造と文化の違い:
 - 北欧諸国は比較的平等な社会構造を有しており、福祉国家として知られています。一方で、日本は長らく社会的なヒエラルキーが強く、労働市場や組織内での上下関係が重要視されています。
- 働き方とワーク・ライフ・バランス:
 - 北欧では労働時間が相対的に短く、ワーク・ライフ・バランスが重視されています。対照的に、日本は過労死の問題などから働き方改革が進むなど、労働環境の改善が課題とされています。
- 文化的背景と価値観:
 - 北欧と日本は異なる文化的背景を持ち、価値観にも違いがあります。例えば、コミュニケーションスタイル、個人主義と共同体主義のバランス、価値観の形成に影響する宗教や歴史などが異なります。
- 自然へのアプローチ:
 - 北欧は美しい自然環境に囲まれており、環境への配慮が強調されています。対照的に、日本は人口密度が高く、都市化が進むなかで自然との調和が課題となることがあります。
- 包摂(Inclusive)に関するアプローチ:
 - 日本はまだまだこれから感があるが、北欧では単一民族で多様性が低いことから、包摂は重要視されてきている。

イングルハートの価値空間における日本人の位置変化



(注) 世界価値観調査による。数字の2から7はそれぞれ1990, 1995, 2000, 2005, 2010, 2017年(多くの国の調査開始年による各wave)の結果であることを指している。×Y軸は下に掲げた設問と連関する指標値である。関連設問、国の区分、圏域名(儒教圏など)は基本的に原研究のRonald Inglehart and W. E. Baker(2000), "Modernization, Cultural Change, and the Persistence of Traditional Values" (American Sociological Review)による。

Y軸 = 伝統的価値 (traditional values) の関連設問 (世俗的・合理的価値 (secular and rational values) の逆) ・神は私の人生や暮らしにとって重要である ・子どもにとっては、独立心や自ら決めることより信仰心や言うことをきくことの方が大切である ・墮胎は決して正しくない ・自分の国に対して強い誇りを持っている ・国のえらい人に対して尊敬の念を持っている	X軸 = 生存的価値 (survival values) の関連設問 (自己表現的価値 (self-expression values) の逆) ・自己表現や生活の質より経済的・物的な生活の充足に優先度をおいている ・余り幸福ではない ・請願書にサインしたことがなく、したいとも思わない ・同性愛は決して正しくない ・人を信用するのに慎重でなければならない
---	--

(資料) WVS Cultural Map: 2023 Version Released (2023/2/17, WVS HP)

日本が well-being において北欧から学べること

- **働き方改革:**
 - 北欧諸国では、労働時間が相対的に短く、ワーク・ライフ・バランスが重視されています。日本も働き方改革を進め、過労対策や柔軟な働き方の促進など、働く人々の well-being を向上させる方策を学べます。
- **社会的な平等と福祉:**
 - 北欧諸国は社会的な平等と福祉を大切にしており、高い生活水準が維持されています。日本も社会的な格差の縮小や福祉制度の改善に取り組むことで、より多くの人々が well-being を享受できる社会を目指せます。
- **自然環境への配慮:**
 - 北欧は美しい自然環境に囲まれ、環境への配慮が重視されています。日本も持続可能な開発や環境保護を強化し、豊かな自然を守りながら well-being を向上させる手法を学べます。
- **コミュニティと協力:**
 - 北欧社会では共同体志向が強く、協力と信頼が根付いています。日本も地域社会や助け合いの文化を大切にするすることで、人々の結びつきを深め、well-being を促進できます。

フィンランド

- ウェルビーイング (well-being) への関心の高さは、働き方、教育、子育て、デザイン文化など、様々な側面で表れています。
- 働く人のウェルビーイングは非常に重視されています。例えば、フィンランド政府は「労働2030」というプランを通じて、労働者の意義深い仕事、健康、安全、ウェルビーイングを支える政策を推進しています。
- フィンランドでは生産的に仕事をこなし、自分の働き方と時間をコントロールする文化が根付いており、午後4時には仕事を終えることも一般的です
- 実際に、多くの男女ともにワークライフバランスを重視というか、ワークライフバランスをとることが自然になっているようです。



フィンランド

- 高い社会的信頼と平等性：
 - フィンランドの人々は、政府や他の人々に対して高い信頼を寄せています。また、社会的な平等が高く評価されており、性別、年齢、背景にかかわらず平等な機会が提供されています。
- 教育制度：
 - フィンランドは世界的に高い評価を受ける教育制度を有しており、教育の質が非常に高いことで知られています。教育は無料であり、子どもたちは幼い頃から批判的思考と創造性を育む教育を受けます。
- 福祉国家：
 - フィンランドは包括的な福祉制度を持ち、市民は健康、教育、社会保障などの分野で充実したサポートを受けています。これにより、市民の生活の質が向上し、ストレスが少ない生活が可能になっています。
- 自然環境とライフスタイル：
 - フィンランドは豊かな自然に恵まれており、森林、湖、清潔な空気などが人々の健康とウェルビーイングに貢献しています。また、居住者は自然との強い結びつきを持ち、アウトドア活動が盛んです。
- ワークライフバランス：
 - フィンランドでは労働と私生活のバランスを大切にしており、長時間労働の抑制、有給休暇の利用促進、柔軟な労働条件などにより、個人の生活を充実させています。
- これらの要素が組み合わさることで、フィンランドの人々は高い生活の質と幸福を享受しています。社会的な支援と個人の自由がバランス良く組み合わさっていることが、フィンランドのウェルビーイングの高さの秘密です。



フィンランド

- 理不尽なことが起きにくい社会
- 社会的サポートと個人の自由のバランス
- 包括的高福祉国家
- 公正、機会、包摂、
- 寛容性・他者へのやさしさ
- 経済的平等・再分配
- 低い貧困率7%前後、日本やドイツは16%前後
- 最終的には金銭がものをいうのは間違いないが、最低の生活保障のレベルの状況が高い



フィンランドと日本

- フィンランドと日本で何が異なっているか？
 - **包摂 (Inclusiveness) => 他者に対する寛容性・優しさ**
 - 社会中の誰でも社会の一員として貢献する機会が平等的に与えられている
 - 具体的な項目としては、
 - 特定なグループに所属することで政治的な利益が得られやすい
 - 性別不平等
 - 同性愛者に不寛容的
-

フィンランド：テクノロジーとスタートアップ

1. **革新的なビジネス環境**：フィンランドは世界でも最も革新的な国の一つとして知られています。これは、強力な教育システム、高い研究開発投資、そして豊かな技術的専門知識に支えられています。
 2. **スタートアップに優しい環境**：ヘルシンキを中心に、フィンランドは活気あるスタートアップシーンを持っています。政府は起業家精神を奨励し、新興企業に対して資金援助やネットワーキングの機会を提供しています。
 3. **テクノロジーとイノベーションの中心地**：フィンランドはモバイルテクノロジー（特にNokiaの影響）、ゲーム開発（例えばSupercellやRovio）など、特定の分野で世界をリードしています。
 4. **政府の支援**：フィンランド政府は起業家とスタートアップを積極的に支援しており、ビジネスを開始しやすい環境を提供しています。税制面での優遇措置や、起業家向けの補助金・助成金プログラムが存在します。
 5. **国際的なつながり**：フィンランドはEU加盟国であり、国際的なビジネスや貿易においても良い位置にあります。これは国外からの投資や、国際的なパートナーシップを築くための大きな利点です。
 6. **高い生活の質と労働環境**：フィンランドは高い生活の質、優れた社会福祉、労働者の権利を重視する文化を持っています。これは、労働者のモチベーションと生産性を高める要因となっています。
 7. **教育と研究の質**：フィンランドの教育システムは世界的に高く評価されており、優秀な人材を育成しています。また、研究開発にも力を入れており、革新的なアイデアや技術の実用化が盛んです。
- これらの要因により、フィンランドは起業家やスタートアップにとって非常に魅力的な国であり、多くの成功事例が生まれています。

フィンランド：テクノロジーとスタートアップ

- 高度なデジタルインフラストラクチャ**：フィンランドは、高速なインターネット接続と広範なデジタルインフラを備えています。これにより、デジタルビジネスが非常に活発に展開されています。
 - イノベーションと技術のリーダーシップ**：フィンランドはイノベーションと技術開発において世界をリードしており、特にモバイルテクノロジーやソフトウェア開発で知られています。かつてのノキアの影響が大きく、その遺産が今日のデジタルビジネスにも反映されています。
 - スタートアップエコシステム**：フィンランド、特にヘルシンキは、活発なスタートアップエコシステムを有しています。政府や民間セクターからの支援により、多くの新興企業がデジタル分野で成功を収めています。
 - 教育と人材育成**：高水準の教育システムにより、フィンランドは高度な技術スキルを持った労働力を供給しています。これは、デジタルビジネスの成長を促進する重要な要素です。
 - 政府のデジタル化推進**：フィンランド政府は、公共サービスのデジタル化を推進しており、ビジネスのデジタルトランスフォーメーションにも積極的に取り組んでいます。
 - 国際的なビジネス環境**：フィンランドはEU内でのビジネスや国際的なコラボレーションに適した環境を持っています。これにより、デジタルビジネスは国内外で幅広く展開されています。
 - サステナビリティとエシカルなビジネス**：フィンランドのデジタルビジネスは、サステナビリティやエシカルなビジネスプラクティスを重視しています。これにより、持続可能で責任ある方法でのビジネスが推進されています。
 - ゲーム産業の成功**：Supercell（「クラッシュ・オブ・クラン」）やRovio（「アングリーバード」）など、フィンランドはモバイルゲーム業界で世界的な成功を収めています。
- これらの要因により、フィンランドはデジタルビジネスにおいて非常に有望な市場となっており、今後もさらなる成長が期待されています。

フィンランドと日本：経済格差

- フィンランドと日本の経済格差について考察する際、いくつかの重要な側面があります：
 1. **経済規模**：日本の経済は、世界で第三位のGDPを持つ大きな経済体です。対して、フィンランドの経済規模ははるかに小さいです。日本の経済規模はフィンランドよりも大きく、多様な産業と巨大な内需市場を持っています。
 2. **産業構造**：日本は自動車製造、電子機器、重工業などの分野で世界的なリーダーです。一方、フィンランドは通信技術、環境技術、教育、および福祉関連のサービスで特に強いです。
 3. **輸出依存度**：日本経済は、多くの先進国と比較して輸出に対してやや依存度が低い傾向にあります。これに対し、フィンランド経済は輸出に非常に依存しており、特にヨーロッパ連合（EU）内での貿易が重要です。
 4. **イノベーションと研究開発（R&D）**：両国ともにイノベーションと研究開発に強い注力をしていますが、その焦点は異なります。日本は技術革新と製造業の効率化に強みを持ち、フィンランドは教育、クリーンテクノロジー、そしてICTの分野でのイノベーションに重点を置いています。
 5. **人口と市場規模**：日本の人口は約1億2600万人であり、大きな国内市場を持っています。これに対して、フィンランドの人口は約550万人で、市場規模が比較的小さいです。
 6. **社会的福祉と生活の質**：フィンランドは高い社会的福祉と生活の質で知られ、教育、医療、社会保障が高水準です。一方、日本も高い生活水準を持っていますが、高齢化や労働市場の課題など独自の社会経済的課題を抱えています。
 7. **経済的平等**：フィンランドは世界で最も経済的平等が実現されている国の一つです。日本も比較的平等な社会ですが、フィンランドほどではありません。
- これらの比較から、日本とフィンランドはそれぞれ異なる経済的強みと課題を持っていることがわかります。両国ともに先進国でありながら、経済の規模、産業構造、および社会政策において異なる特徴を持っています。

日本：今後のWell-Beingの進展の可能性とマーケット

- 企業でのWell-Being
- コミュニティでのWell-Being
- 地方自治体・地方公共団体でのWell-Being

連絡先
パンゲア合同会社 加藤まで
masaokato@pangaeajapan.com
080-5431-8800

ありがとうございました

Thank you!

Merci! Danke!

Kiitos Tak!

Aitäh! Ačiū Paldies!

Gracias Grazie!

Eυχαριστώ

Gratias tibi ago!

多謝 谢谢

감사합니다

